

障害者の実態を県政へ

党県議団が障害者団体と懇談

日本共産党富山県議団は5日、富山市のサンシップで障害者団体と懇



あいさつする火川県議=6日、富山市

談しました。障害者団体は5日、富山市のサンシップで障害者団体と懇望などを次々と訴えました。

火爪弘子県議が「県の障害者計画が第3次、4次と出されたがみなさんの運動が実ってきている。先の参院選で重度心身障害者の2人

が当選し、国会のバリアフリー化や障害者サービスのあり方など、改めて改革の必要性が浮き彫りになった。共産党県議が

2人になり、2倍以上の仕事ができるようになった」とあいさつ。津本二三男県議も「6月議会で初めて県議会質問に立ち、精神障害者も県単独医療費助成の対象にするよう求めた。厚生環境委員会所属の議員として頑

張りたい」と述べました。懇談では、「盲ろう者は県内に150人いるが、制度を利用して社会参加しているのは4、5人。多くは家の中に閉じこもって孤立している。盲ろう者の調査、掘り起こしが進むようにしてほしい」「障害者用のパーキングが大型車イスの場合、狭すぎる。もっと大きなスペースが必要。公共施設や大型店では無条件に改善すべきだ」「障害者用トイレは子ども用が圧倒的。大人のトイレがほとんどない」「夫は視力ゼロ、聴力が落ちて

きている。津本議員が加齢性難聴者への補聴器購入の支援を質問したが、ぜひ実現してほしい」な

ど切実な要望が相次ぎました。

精神障害の実態学び考えよう 障害フォーラムinとやま

「これからの精神障害者福祉を考えるー障害フォーラムinとやま」



フォーラムで議論するパネリスト=7日、富山市

総合社会福祉センターで開催された。約200人が参加し、精神障害者の現状と今後の共生社会の在り方などについて熱心な討論がなされま

した。富山障害フォーラムの布尾英二会長が「障害者差別解消法とその県条例が施行されて4年目になるが、差別や合理的配慮などまだまだ一般には理解されているとは言えない」として、考え学ぼうと訴えました。集会では、呉秀三の生涯を描いた映画「夜明け前」を上映し、きょうさ

れん専務理事の藤井克徳氏が「夜明けを迎える一助として」と題して基調講演しました。

藤井氏は講演で、映画で紹介された日本の精神医学の先駆者であり、精神障害者への差別や偏見、人権侵害とたたかい、新しい患者観・障害者観を示した呉秀三の功績を紹介。「今も精神医療は入院中心主義、貧寒な地域生活支援策、根強い差別や偏見、重い家族負担など一向に改革されていない」として、障害者権利条約に基づく一刻も早

い改革を訴えました。

講演後、藤井氏に加え、門田晋氏（むげん理事長）、青山正二氏（富山かれん理事長）による鼎談やフロアからの発言で、精神障害者やその家族が地域で孤立せず共生

していくにはどうしたらいいか、取り組みや体験が交流・討論されました。参加した他の県議らとあわせて、日本共産党の火爪弘子、津本二三男両県議が紹介されました。